

岬中学校図書館〈ラーニングセンター〉の活用について

本校の学校図書館は、1997年の新校舎設立の際に「ラーニングセンター」として設計された。教室8つ分の面積に、2・3階を吹き抜けとしてつくられており、図書の貸し出しができるだけでなく、学習スペース、くつろぐためのスペースが配置されている。また、2クラス同時に授業を行うことができるようになっている。蔵書は約20,000冊、学校司書も常駐で配置されている。岬町に唯一の中学校、「岬の子はみんなここで育つから」と、この恵まれた環境をつくることが認められた。

開設より20年。本校ではこのラーニングセンターをできるだけ活用して生徒たちの学力向上に役立てようと、さまざまな工夫を凝らした授業が行われてきた。特に国語科では、中学校生活3年間を通してラーニングセンターを利用するカリキュラムを、ある程度確立してきた。さらに、他教科での実践も進められた。「自分が知りたいことを調べる」「調べたことをどう伝えるか考える」など、教室での一斉、一律の授業では得難い学びがある。

そんな中、現在、課題となっているのは引き継ぎについてである。近年、学校現場では教員の世代交代が進んでおり、それまでに取り組んできた内容や手法などの引き継ぎはあらゆる教科や分掌における必須作業である。本校では少子化による教員の減少に伴って、一人あたりの仕事量が増え続けている現実もあり、ラーニングセンターを利用した取り組みの継承が困難になっている。このような環境や授業実践がなかった他校から転勤してきた人は、いくら教職経験が豊かでも、ラーニングセンターの利用には戸惑いがある。ラーニングセンターの設計から授業づくりを中心となって実践してきた教員は、一度他校への転勤があったものの、本校での勤続が20年を超えることになった。残された時間は少ない。

今回の研修で来ていただいた先生方に多くのご意見や感想をいただき、改めてラーニングセンターはとてもありがたい環境であると感じた。本校の生徒はラーニングセンターが大好きだ。私自身も本校に転勤して以来、今までしたことのない授業に取り組んで生徒とともにわくわくした。受験を間近にして放課後自習をする3年生の姿にも、成長を感じることができた。しかし、どれだけ良い環境も、その環境を生かす実践がなければ意味がないものになってしまう。難しい現状の中でも、ラーニングセンターの活用実践を続けていかなければならない。今後は、そのことを学校全体でも確認し、他の教員の力を借りながら、ラーニングセンターの活用実践を衰退させることなく、さらに充実したものにしていきたい。